

再評価結果(令和8年度事業継続箇所)

担当課: 道路局 環境安全・防災課
担当課長名: 水野 宏治

事業名	スマートICアクセス 市道加佐草加野線	事業区分	地方道	事業主体	兵庫県三木市
起終点	自: 兵庫県三木市平田 至: 兵庫県三木市加佐			延長	2.3km
事業概要	<p>市道加佐草加線は、三木市街と小野工業団地(小野市)を南北に結び、市の清掃センターや山陽自動車道三木サービスエリアへのアクセス道路である。</p> <p>(仮称)三木スマートICの整備に合わせて市道加佐草加野線を整備することで、周辺道路の交通が分散され渋滞の緩和や事故の削減、山陽自動車道へのアクセスが改善されることによる物流の効率化や地域活性化が図られる。</p>				
	R3年度事業化	- 年度都市計画決定 (- 年度変更)	R3年度用地着手	R4年度工事着手	
全体事業費	約12億円		事業進捗率	約72%	供用済延長 — km
計画交通量	3,700台/日				
費用対効果分析	B/C (事業全体)	EIRR (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体)	総便益 (残事業)/(事業全体)	基準年
	9.0		6.2/ 14 億円	127 / 127 億円	
	参考 12.5 [2%]	29.5%	(事業費: 4.2 / 12 億円)	(走行時間短縮便益: 118 / 118 億円)	令和7年
	14.9 [1%]		(維持管理費: 2.0 / 2.0 億円)	(走行経費減少便益: 7.1 / 7.1 億円)	
	(残事業)	(残事業)	(更新費: / 億円)	(交通事故減少便益: 1.9 / 1.9 億円)	
	20.4		感度分析	(事業全体)	(残事業)
参考 24.6 [2%]	103.2%		交通量	B/C=7.7~10.0(±10%)	交通量 B/C=17.6~22.6(±10%)
26.9 [1%]			事業費	B/C=8.3~9.8(±10%)	事業費 B/C=17.2~24.9(±10%)
			事業期間	B/C=8.7~9.3(±20%)	事業期間 B/C=20.0~20.6(±20%)
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全 三木小野IC・三木東ICへの交通が分散され、三木市内及び小野工業団地等の交通渋滞の緩和が期待される。生活道路事故多発地域の交通量が減少するため、交通事故の削減が期待される。 ・緊急医療体制の確立 三木SA内で発生した救急時において、第2次救急医療機関へのアクセスが向上し、救命率の向上が期待される。 ・防災効果 美囊川氾濫時において、浸水によるアクセス困難地域と物資受入拠点等との経路が確保され、迅速な救援活動が支援できる。 				
関係する地方公共団体等の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・国土交通大臣からの連結許可(令和2年10月16日付け) ・国土交通省近畿地方整備局、兵庫県、西日本高速道路(株)関西支社、小野市からの実施計画の合意((仮称)三木スマートインターチェンジ地区協議会 令和2年9月11日) 				
事業評価監視委員会の意見	事業継続を妥当と認める。(R8.2開催予定)				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	周辺環境等に特に変化はない。				
事業の進捗状況、残事業の内容等	用地進捗率約100%、事業進捗率約72%				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	早期完了を目指して事業を推進していく。				
施設の構造や工法の変更等	今後も新技術の採用や工法の見直しによる工事コストの縮減等、総コストの縮減に努めていく。				

対応方針	事業継続 (R8.2開催予定)
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。
事業概要図	

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したものの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。([]内は社会的割引率の値)